

(2) 自然災害への対応		評価基準の適用		取組状況の評価	
区分	取組状況	段階3	段階2	段階1	段階未滿
細区分	ア 自然災害リスクの軽減及び回復				
(ア) 浸水被害への備えに係る事項	a 想定最大浸水深の把握可否〔可・否〕 浸水深〔 m〕 b 水防ライオン設置の有無〔有・無〕 地盤面からの高さ〔 m〕 c 電気設備の設置階の高さ〔 m〕 又は水防ライオン内への設置の有無〔有・無〕 d 使用者等一時滞在場所及び防災準備倉庫等の設置階の高さ〔 m〕 e 使用者等一時滞在場所及び防災準備倉庫等の設置階の高さ〔 m〕 又は水防ライオン内への設置の有無〔有・無〕 f 点数〔 〕				
(イ) 雨水流出抑制に係る事項	a 流出抑制施設の浸透・貯留量〔 m ³ /ha〕 b 建設地の区市町村における基準〔有・無〕 c 建設地の区市町村における基準量〔 m ³ /ha〕 d 点数〔 〕				
(ウ) 建築物自体の損傷抑制に係る事項	〔建築物の耐風性又は建築基準法に定められた50%増の耐震性を有している・建築基準法に定められた20%増の耐風性又は建築基準法に定められた25%増の耐震性を有している〕				
(エ) 建築物の内部設備等の損傷抑制に係る事項	〔建築物の部材を抑える措置を導入し、建築物の全体において地震時及び強風時の内部設備等の損傷抑制を図っている・建築物の部材を抑える措置を導入し、建築物の一部において地震時及び強風時の内部設備等の損傷抑制を図っている〕				
細区分	イ 自然災害発生時の対応力向上				
(ア) 災害時用の自家発電設備等の設置に係る事項	〔系統電力の停電時に使用者等一時滞在場所への電力供給するための自家発電設備(再生自家発電設備を除く。)を備えている・自家発電設備が、防災計画やBCP等における系統電力の停電時の電力供給を踏まえた容量出力を備え、当該設備の運転のための増設を講じている・建築物等に再生自家発電設備、蓄電池、V2B充放電設備又は四角放電設備のうちいずれかを設置し、系統電力の停電時に当該設備により、使用者等一時滞在場所へ電力供給する仕組みを導入している〕				
	自家発電設備の種類〔 〕				
	自家発電設備の容量〔 〕				
	自家発電設備の燃料の種類〔 〕				
	蓄電池の容量〔 〕				
	点数〔 〕				
(イ) 災害時の建物機能維持に係る事項	〔防水槽や貯湯式給湯器等、断水時に水を使用することができる設備を備えている・平時に利用する雑用水を災害時にも利用できる仕組みを備えている・平時に使用するトイレを災害時にも利用できる仕組みを備えている・使用者等一時滞在場所において、災害時に閉閉可能な窓や換気口を備えている・防災計画やBCP等により、使用者等一時滞在場所及び防災準備倉庫を確保している〕				
	防水設備の種類〔 〕				
	災害時利用ができるトイレの数〔 〕				
	点数〔 〕				
(ウ) 災害時の地域貢献に係る事項	〔一時滞在施設を設け、当該施設の災害時使用等について、当該建築物が所在する区市町村と協定等を締結している・一時滞在施設の評価者のための防災準備倉庫を確保している・系統電力の停電時において、一時滞在施設を72時間運営するために必要な自家発電設備及び当該設備の運転のための措置を講じている・建築物の使用および居住困難者へ災害情報を提供するための無線LAN、デジタルサインエージ、館内放送設備等を備えている〕				

分類別の取組状況の評価	段階3の数	段階2の数	段階1の数	適用する細区分数
1 エネルギーの使用の合理化及び再生可能エネルギーへの転換				
2 資源の適正利用				
3 生物多様性の保全				
4 気候変動への対応				
全分野合計				

備考 1 取組状況の評価欄中「〔 〕」には該当する事項に○印又は必要事項を記載すること。
 2 当該評価基準の適用がある場合は評価基準の適用欄に「適用する」と記載し、適用がない場合は「適用しない」と記載すること。
 3 取組状況の評価欄は、取組状況の評価欄に応じて該当する段階に○印を記載すること。ただし、評価基準に適合しない場合は段階未滿に○印を記載し、別表第2に掲げる細区分に該当する措置について、取組状況及び取組状況の評価を記載をしない場合は「記載省略」に○印を記載すること。

第3 環境への配慮のための措置の概要

備考 1 設計上の基本方針、維持管理計画、設計及び維持管理計画上の制約等、特に配慮した事項を記載すること。
 2 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例の一部を改正する条例(令和4年東京都条例第141号)第1条による改正前の条例第17条の4の規定によるエネルギーの使用の合理化に関する性能の目標値を設定すべき場合に限り、省エネルギーの性能の目標値及び措置を講じた結果を記載すること。

第2 環境への配慮のための措置及びその取組状況

分野	1 エネルギーの使用の合理化及び再生可能エネルギーへの転換	
区分	(1) 建築物の熱負荷の低減	
細区分	ア 建築物外気の熱負荷抑制	取組状況
(ア) B10の計算方法	[]	評価基準の適用
(イ) a Bp1	[]	取組状況の評価
b PAL*の設計値	[]	段階3
c PAL*の基準値	[]	段階2
(ウ) 外壁の熱貫流率	[]	段階1
(エ) 屋根の熱貫流率	[]	段階未達
(オ) 開口部の熱貫流率	[]	記載を省略
(カ) 窓の日射熱取得率(η)	[]	
区分	(2) 再生可能エネルギーの利用	
細区分	ア 再生可能エネルギーの直接利用	評価基準の適用
(イ) 中・高校以外の用途	取組状況	取組状況の評価
(イ) 採光利用システムに係る事項	[]	段階3
(イ) 通風利用システムに係る事項	[]	段階2
(イ) 地中熱利用システムに係る事項	[]	段階1
(イ) その他のシステムに係る事項	[]	段階未達
(オ) 再生可能エネルギーの直接利用量の合計	[] MJ/㎡・年	記載を省略
(イ) 中・高校用途		
(カ) 全教室数	[] 室	
(キ) 窓が2方向以上に面している教室数	[] 室	
(ク) 採光を満たす教室の割合	[] %	
(ク) 換気口又は窓が2方向以上に面している教室数	[] 室	
(ク) 通風を満たす教室の割合	[] %	
細区分	イ 再生可能エネルギーの要換利用	評価基準の適用
(ア) 再生可能エネルギー利用設備設置基準の適用(適用しない)	[]	取組状況の評価
(イ) 設置基準(定格出力)	[] kW	段階3
(ウ) 太陽光発電設備(定格出力)	[] kW	段階2
(エ) 太陽熱利用(定格出力)	[] kW	段階1
(オ) 地中熱利用(定格出力)	[] kW	段階未達
(カ) (ウ)以外の再生可能エネルギー設備(定格出力)	[] kW	記載を省略
(キ) (ウ) (エ) (オ) (カ)以外の再生可能エネルギー設備(定格出力)	[] kW	
(ク) その他の再生可能エネルギー設備の詳細	[]	
(ク) 再生可能エネルギー利用設備の設置合計容量(定格出力)	[] kW	
(ク) 再生可能エネルギー利用設備設置基準に対する比率	[] 倍	
細区分	ウ 電気の再エネ化率	評価基準の適用
(ア) 建築物等における電気使用量(想定)	[] kWh/年	取組状況の評価
(イ) 建築物等に設置する再生可能エネルギー設備による発電の使用量	[] kWh/年	段階3
(ウ) 建築物等以外に設置する再生可能エネルギー設備による発電の使用量	[] kWh/年	段階2
(エ) 小売電気事業者による再生可能エネルギー電気の供給	[] kWh/年	段階1
a 電気の供給量	[] kWh/年	段階未達
b aの電気の再生可能エネルギーの割合	[] %	記載を省略
c aの電気のうち、再生可能エネルギー電気の量	[] kWh/年	
(オ) 建築物において使用する環境価値の量(想定)	[] kWh/年	
(カ) 再生可能エネルギー電気の合計量(想定)	[] kWh/年	
(キ) 電気の再エネ化率	[] %	

区分	(3) 省エネルギーシステム	
細区分	ア 設備システムの高効率化	取組状況
(ア) 非住宅用途B10の計算方法	[]	評価基準の適用
(イ) a 非住宅用途B10の基準値(複数市況の場合)	[] GJ/年	取組状況の評価
b 非住宅用途B10の基準値(複数市況の場合)	[] GJ/年	段階3
c 設計一次エネルギー消費量	[] GJ/年	段階2
d 基準一次エネルギー消費量	[] GJ/年	段階1
(ウ) ZB10に係る事項	[]	段階未達
(エ) a 設備別の一次エネルギー消費量の状況	[]	記載を省略
空調	[]	
給湯	[]	
b 設備別設計一次エネルギー消費量	[]	
空調	[]	
照明	[]	
昇降機	[]	
設備別基準一次エネルギー消費量	[]	
空調	[]	
照明	[]	
昇降機	[]	
(オ) 熱源・熱源補機・熱搬送に係る事項	[]	
(カ) 空調負荷の低減に係る事項	[]	
(キ) 空気輸送動力の低減に係る事項	[]	
(ク) 換気設備に係る事項	[]	
(ク) 照明制御に係る事項	[]	
(ニ) 昇降機設備の制御に係る事項	[]	
(ウ) 省エネルギー効果が高いと見込まれる未評価技術	[]	
(ウ) コーゼンシステム定格出力	[] kW	
(ス) 蓄熱方式に係る事項	[]	
区分	(4) 地域における省エネルギー	
細区分	ア エネルギーの面的利用	取組状況
(ア) 評価基準が適用される建築物	[]	評価基準の適用
[特定開発事業において延べ面積が1万㎡を超える建築物・地域冷暖房区域において住宅以外の用途の床面積の合計が1万㎡を超える建築物]	[]	取組状況の評価
(イ) 地域冷暖房区域の有無(有・無)	[]	段階3
(ウ) 地域冷暖房区域の名称	[]	段階2
(エ) 地域エネルギー供給事業者から受け入れる熱のエネルギー効率の値	[]	段階1
[]	[]	段階未達
(オ) 複数の建築物間での空調排熱以外の有効利用を図ることが可能なエネルギー利用の有無	[]	記載を省略
(カ) 複数の建築物間での空調排熱以外の有効利用を図ることが可能なエネルギー利用の有無	[]	